

笑顔と語らい 充実の時間を過ごした公民館活動



発行所 飯田市竜丘公民館
編集人 竜丘公民館広報委員会
印刷所 龍共印刷株式会社
飯田市上郷黒田 ☎22-5353

人口	6,823人
男子	3,358人
女子	3,465人
世帯数	2,140戸
(15年3月末現在)	

反省を活かし 新たな創造を

公民館長 木下陸奥
平成十四年度の竜丘公民館の諸事業が、地域の方々のご協力を頂き、無事に終えることが出来ました。

委員のみなさんの積極的な活動と各分館の部員の方々の協力に改めて感謝申し上げます。

新しい公民館は、建設当時の熱い願いを背負って、二年が経ちました。

利活用も多く、地域の方々の交流の拠点として、また竜丘の文化活動の発展に大いに役立っていることは誠に有難いことであります。

地域が限りなく発展するためには、年度の節に、実践についての厳しい反省を行って次年度へとつなげていくことが極めて重要であります。各委員会の活動は勿論のこと、公民館の全てについて新しいものを生み出すために反省して参ります。



文化祭でそばをうつ みなさん

諸事業が情性に陥ることなく、自らを厳しくみつめ常に創意工夫し、地域の発展に願いを込めていきたいものであります。

竜丘の歴史文化には、すばらしいものがあります。地域の方々が、共に誇りとその発展に熱い思いが醸成されていくための方向づけと実現への働き掛けは、公民館の役割であります。

地域の方々の一層の発言とご協力を切にお願い申し上げます。

実り多き文化活動 大盛況

文化委員長 塩澤正憲

この一年を振り返って、どの事業にしても多くの地



熱戦の連続だった 市民運動会

域の皆さんに大変協力、参加頂いたことに感謝申し上げます。

その中で、一番印象に残るのはやはり竜丘地区文化祭です。今年も各分館、各諸団体グループの皆さんに参加頂き、文化活動の発表の場として盛大に開催できました。

新しい公民館で二回目ということで、前年とほぼ同じレイアウトで行いました。反省の中で大ホールの配置などについて、貴重なご意見を頂きました。次年度の検討事項として引継がさせていただきます。

楽しく参加できた スポーツ活動

体育委員長 松枝彰人

今年度の体育事業も皆様のご協力のもと、すべてを終了することができました。綱引きを始め、市民運動会、ソフトバレーボール等それぞれ、当初の目標を達成できたのではないかと思

分館紹介

時又分館では、年間さまざまな事業を行ってまいりますが、そのうちの幾つかを紹介いたします。

六月には、常会対抗でのゲートボール大会を行っています。

世代を越えての 交流の場

公民館時又分館

時又地区は、カルニュー光学のグラウンドにて幾多の大会が行われてきました。しかし、諸事情によりグラウンドが無くなってしまいました。平成十四年度は、治水対策事業で時又港下流に造成された新しいグラウンドのお披露目も合わせて行われました。

公民館だけではなく、多くの団体や有志の皆さんの協力によって運営されています。去年の七夕祭りは、イベントの一つの中に、ハワイアンバンドの演奏があり、アロハシャツにムー

十二月には、社協、育成会、白寿会、実年会、校外指導部などの各種団体の共同開催で、世代交流会を行いました。

今後、子どもからお年寄りまでだれもが参加しやすい事業を行ってまいります。



手ほどきをうけてのおやす作り

潤いある憩いの場へ

「竜丘水辺の楽校」発足

天竜川治水対策事業竜丘工区に造成され、昨年九月にオープンした水辺の楽校の、今後の運営方向を検討する合同委員会が、去る二月二十日に開催されました。

委員会で議論の結果、「竜丘水辺の楽校」を発足させ管理していくことが確認されました。この会の目的は、子どもたちの健全育成と、地域住民の憩いの場として活用されるように、良好で安全な環境を維持していくことです。会の構成は、地域関係団体と目的に賛同し会員申し込みをした

個人らで組織されます。次年度事業の事業については、春または夏に、交流会やイベントを計画する。管理作業として、草刈りや年度数回行うことが確認されました。

三月十六日には、植樹と環境整備が育成会、壮年団

公民館の代表



おもいを込めた植樹

ヤブ叢

「光陰矢のごとし」という言葉があるが、四月はより身近かに実感している。「月日の流れるのは早いなあ」と、思う日々である。

新しいカバンを背負って登園していく我が子の姿を見て、「大きくなったなあ」と感じる。つい昨日生まれた様に思えるが、もう三年の月日が流れている。集団生活ができるのか心配したりもする。しかし、小学校、中学校と子どもが成長していくと、今の心配ごとが、昔はそうだったなあと思える日が来るのだろう。

小学校の卒業時に、記念でタイムカプセルを埋めた。これを卒業二十五年目の節目にあたる今年の五月に開けることになった。同級生と電話で連絡を取り合っているが、昔の思い出話に花をさかせてついつい長電話になってしまふ。カプセルに何が入っているのか。また、掘り出す時期がいつと約束したのかなど、皆覚えていることが、個々に違うのである。話しをしていてやっぱり長い年月が経ってやっぱり長い年月が経ってんだなと思う。

今、世界をさがさせていることのひとつに、イラク戦争がある。関連の報道からは、一般の市民にも多くの犠牲者が出ていると伝えられている。戦争の理由はどうであれ、これはまぎれもない事実である。このような戦争の事実を、昔話にしてはいけないと切に思う。

どの親でもそうだが、我が子の成長は実に楽しみなものである。平凡ではあるが、子どもたちが成長していても、友達と笑顔で昔話ができる、そんな時代でいつまでもあってほしいと願う。

安全で安心な施設

新焼却場の竣工式典開かれる

南信州広域連合が、旧桐林クリーンセンターの隣に建設した新焼却場の竣工式典が、三月二十七日、サンヒルズいいで開かれ、広域連合や地元竜丘地区の関係者ら約百二十人が出席し、安全で安心な施設の運営を誓い合いました。

式典の冒頭のあいさつで、田中秀典広域連合長は「環境問題に対する関心が高まり、ダイオキシン類の恒久的な削減が重要な課題となる中、飯田下伊那地域の三つの焼却場を統合し、ダイオキシン類を限りなくゼロに近づける新しいごみ処理施設を、広域連合として十七市町村が建設することにした。当広域連合が掲げる『飯伊は一つ』を象徴する事業である。飯田下伊那の市町村が一致団結して、さらに発展していくための新たな第一歩でもある。」とこの事業の意義を強調しました。



建設については、平成十一年八月に建設予定地周辺の生活環境影響調査に着手し、地区住民のみならずのご理解と協力をいただき、翌年九月に広域連合と地元竜丘、伊賀良両自治協議会との正式協定調印が成立し着工しました。三年間の継続事業として、総事業費約五

十億円を投じて整備した施設です。一日当たりの処理能力は九十三トンで、十七市町村がそろってごみの減量、分別、再資源化をすすめる、どうしても燃やさなければならぬごみを処理するため、適切な規模に設定されました。



また、ごみ処理の最新技術である『ガス化溶融システム』を県内で初めて採用し、ダイオキシン類などの有害物質の排出を極力少なくするとともに、これまで埋め立てていた焼却灰の七十％をスラグとして、アスファルトなどの路盤材に再資源化できるようにになりました。昨年十二月から、十七市町村よりごみを全量受け入れ本格的に移動しています。

この移設の竣工で、より一層環境に配慮したごみ処理ができる体制が確立しました。竜丘地区は自然や歴史、そして人情豊かな地域です。私たちのかけがえない財産であるこの地域の環境を、さらに良いものにするために、私たち一人ひとりがごみの減量、分別、再資源化を着実に実践することが求められています。

人間らしく生きることで できる地域を 住民自治講座開催

三月十七日に竜丘公民館にて、住民自治講座が開催されました。この講座は、市町村合併問題が議論がされるなかで、将来の地域づくり、住民自治について考える場として、設けました。講師には、数年にわたり竜丘の公民館活動を研究してこられた、北海道大学助教授の宮崎隆志先生をお迎えしました。

現在の合併議論については、地域という共同社会の特性や、そこに暮らす人々の生き方に視点がない、視点がいないなかでは、合併によって、地域が高まるのか疑問である指摘されました。

地域の自然や歴史を大切にす活動、多くの学級講座活動を通し、地域のありかた、人々の暮らしのありかたや生き方を問い直してきていくことが、特徴であるとのこと。提言として、地域づくりの根本問題として地域の経済の発展が不可欠であり、働き方や産業の問題の位置づけが必要であるとのこと。

地域に学び 地域に返す

第二回総合学習発表会

去る二月二十七日「発見 たつおか」をテーマに、第二回総合学習発表会が行われました。

様々な角度から調べ、帰化植物やCODという難しい分野まで詳しく説明しました。最後は六年生の「竜丘古墳しらべ」。

子どもたちの学びの姿を地域の方に見ていただく場を持ちたいと、昨年引き続き公民館での開催となりました。

三年生は「広くふるさと たつおかを知ろう」と題し、竜丘地区内を探検して心に残った場所や場面を詩や歌にして発表し、自然いっぱい竜丘を紹介しました。四年生は「感じてみよう 天竜川」の発表でした。春の遠征で舟下りをした天竜川について関心を高めた五年一組は、天竜川の源釜口水門まで見学に行き、

「数多く存在する古墳の一つ一つを足を使って調査、アンケートも取り、ホームページを作りあげ奥の深い発表をしました。会場入口には、五年二組の米作りの様子展示もありました。」

「子どもたちが一年間地域や社会に目を向けて、積極的に活動してきた発表を聞き、地域の方々には終始目を細め大きな拍手を送っていました。」

「子どもたちが一年間地域や社会に目を向けて、積極的に活動してきた発表を聞き、地域の方々には終始目を細め大きな拍手を送っていました。」



発表をする子どもたち



住民自治講座

「ぼたんの里」がオープンをむかえましが、奥の山は、天竜川と合流地に近い四丁橋下の河原に広がり、十八ホール、パー七十二で全長七百九十五メートル、長いホールは五十メートル近いコースもあり、起伏にとんだコースになっています。

コース設計から造成、植樹と住民でできることは、住民自



完成したマレットゴルフ場

住民の汗が作った 手作りコース

「上川路マレットゴルフ場」完成

上川路の久米川左岸に、り親睦が深められる場になりました。

コースは、天竜川との合流地に近い四丁橋下の河原に広がり、十八ホール、パー七十二で全長七百九十五メートル、長いホールは五十メートル近いコースもあり、起伏にとんだコースになっています。

新たに「ドッチデビー」を取り入れ

Cブロック冬季体育大会

二月二十三日、鼎中学校体育館、鼎体育館に於いてCブロック冬季体育大会が行われました。

ドッチデビーは、男性五人女性五人でスポンジ状のディスクを使い十分間戦い残った人数の多いチームの勝ちというもので、今回総当たりの四試合行いました。初

おわりに、人間らしく生きることのできる地域をつくるのが大事であり、そのためには学び合うことが大切です。

今後、公民館としても合併議論を契機に、自治についての学習活動を行っていただくことを予定しています。



ドッチデビー